

## 考える音読で創る説明文の授業「ウナギのなぞを追って」(光村図書4年)

福村 美咲@岩国市立米川小学校

UD やまぐち支部では、「考える音読」の研究をしています。「考える音読」には、大きく分けて3つの音読があります。「**すらすら音読**」「**イメージの音読**」、**そして、「論理の音読**」です。今回は、説明文教材「うなぎのなぞを追って」の実践をもとに、考える音読で創る授業についてご紹介します。

### 1 「形式段落並び替え読み」で、本文をすらすら読めるようにする

教材文「ウナギのなぞを追って」は、4年生児童にとってはページ数も多く、内容の理解も簡単ではありません。そこで、最初に教材文を読み始めるとき、形式段落ごとに交代しながら音読させることで、全文音読でも集中を途切れさせずに音読することができるようにしました。そうすることで、言語理解が苦手な子どもも、友達と交代しながら楽しく音読することができました。

また、少し音読に慣れてくると、音読の活動に気持ちが集中できなくなってくる子どももいます。そこで、授業の導入で



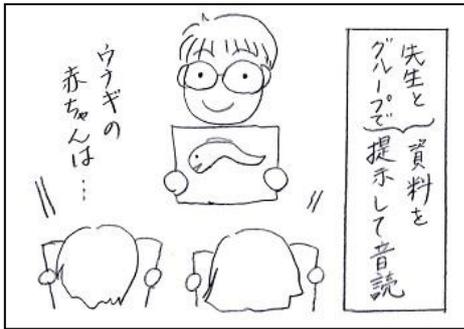
形式段落をわざと入れ替えた文章を提示し、形式段落通りに正しく音読するようにして内容理解を深めたり、先生や友達に「3段落!」と言われたら3段落を音読する等、ゲーム的な要素を取り入れたりして、興味・関心を持続させながら繰り返し音読ができるようにしました。

### 2 「資料指さし読み」で、内容のイメージをつかむ

教材文「ウナギのなぞを追って」は、資料がたくさん提示されています。そして、形式段落に合わせて文章の要約ができるようになっていきます。そこで、内容理解を深めるために、「資料指さし読み」を取り入れて、どの資料がどの形式段落に当てはまるか考えながら音読できるようにしました。すると、子どもたちは自分が音読している段落がどの資料で具体的に説明されているか、どこで資料が変わり、説明の内容が変わっているかを自然と意識しながら音読するようになりました。



例えば、「ウナギの赤ちゃんをどのルートで探していたのか」という資料の説明では、「より小さいウナギを探していく」研究活動が資料の中では矢印と数値、



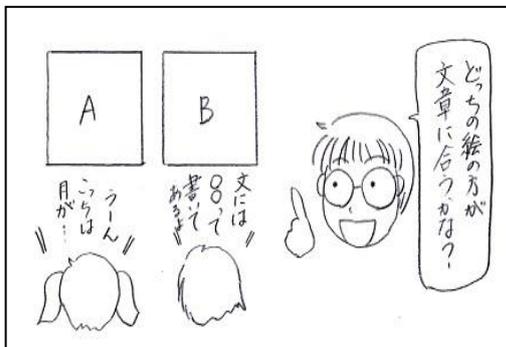
絵で説明されていますが、本文にも具体的に数値が書かれてあり、音読しながら指で矢印をたどることにより、資料をさらに具体化して内容理解を深めることができました。

### 3 「資料入れ替え読み」で筆者の意図（論理）を読む

この教材文は、23年度版に引き続き、27年度版にも掲載されていますが、実は、今回の改訂によって、本文と資料にも変わった箇所があります。「月の満ち欠けとウナギの赤ちゃんレセプトファルスを見つける数に関係がある」という資料です。

まず、資料を提示する時にわざと一部の資料を抜いておきました。子どもたちが足りない資料があることに気づき、資料が足りないことを指摘してきたので、資料 A（前の資料）と資料 B（改訂後の資料）を提示し、「どちらの資料の方が分かりやすいかな？」とたずねました。すると、「本文の〇〇というところに合う

のは B だ。」「A に描いてある絵が、本文では説明されていないよ。」と資料の根拠となる文章を子どもたちは自然と読み取りながら、意見を出すことができました。単なる内容理解だけでなく、筆者がなぜ資料を新しく改訂したのか、という筆者の意図まで考えることができたのです。



今回は、3つの「考える音読」を紹介してきました。子どもたちの中には、そもそも国語の学習が苦手な子ども、言葉の理解に困難さがある子どももたくさんいます。そのような子どもにいきなり論理的な発問（下線部）をしても、なかなか難しいでしょう。**「すらすら」「イメージ」「論理」の三段階を意識して、国語の授業をデザイン**することで、国語の授業で到達させたいところまで、楽しく「わかる」「できる」という実感を持たせて子どもたちを連れて行くことができます。

「考える音読」には、この他にもたくさんのアイデアがあります。詳しくは、「考える音読」の会（授業のUD研究会・やまぐち支部）をご覧ください。

[http://www.geocities.jp/kingof\\_nabe/](http://www.geocities.jp/kingof_nabe/)